

観光経済常任委員会

十月二十四日から二十六日までの日程で、宮崎県新富町にて「家畜伝染病口蹄疫対策」、大分県別府市にて「鉄輪（かんなわ）温泉地区まるごと再生」について調査視察を行いました。



畜舎の消毒を呼び掛ける看板

昨年四月二十日、日本では十年振りに発生した宮崎県での口蹄疫は、各県の獣医師や自衛隊、警察を派遣し移動制限や感染家畜の殺処分、消毒等の防疫措置を実施したものの、宮崎県東部において感染が急速に拡大し、八月二十七日に宮崎県知事による終息宣言が発表されるまで約二十九万頭の家畜が殺処分されるという大きな被害をもたらしました。新富町でも十八例の発症が確認され、殺処分により六月三十日には新富町から牛や豚等が一匹もいなくなるという予想もし得なかった事態となりました。

感染の拡大に伴い、対応の主体が県から町に委ねられるなどの混乱の中、新富町ではこの非常事態に全庁態勢で取り組み、昼夜を問わず目に見えないウイルスと闘い続けました。今回は交通規制、消毒、処分地の確保、殺処分、資材の確保、消毒対策、健康対策等の発生から最終段階までの対応方法について調査しました。新富町では町内に応援旗を掲げたり、畜舎の消毒を徹底する日を設定するなど、絶対に口蹄疫を発生させないという強い決意が感じられました。

別府市の鉄輪温泉地区は、鎌倉時代から湯治場として栄えてきましたが、観光客は昭和五十一年をピークに減少していました。「ふれあいと情緒ある温泉街の賑わいを再生し、うるおいに満ちた湯けむりたなびく交流型観光地の創造」を大目標に、市道の石畳化、ポケットパーク、街路灯、交流センター、まちおこしセンター、情報板、駐車場、足湯、温泉管共同ボックスの整備やポスター、リーフレットの作成を行いました。そこでは地区の歴史や特性を生かしてさまざまな整備が行われていました。特筆すべきは、行政主導ではなく、市民団体、NPO法人、地区の共栄会と協議を重ね事業を進めたことです。旅館組合の方がボランティアで視察時の案内や観光案内を買って出るなど、自分たちで盛り上げたという自信に満ち溢れていました。

民生福祉常任委員会

十月二十六日から二十八日までの日程で、兵庫県高砂市にて「高砂市民病院の管理運営及び主な取り組み」、岡山県倉敷市にて「リサイクル活動」について調査視察を行いました。

高砂市民病院は、平成二年に移転新築し、昭和六十三年に地方公営企業法の全部適用に移行しています。平成十九年度に不良債務が二十六億七千五百万円になったことにより、翌年度から本格的な経営改善に取り組みが始まりました。その取り組みの主なものは、病床数削減、看護局長の副院長への登用、職員の意識改革、院内発表会の開催、医師の待遇改善、外来診察開始時間の十五分前倒し、収益確保対策、費用削減対策等がありました。これらの取り組みに加えて、市からの繰入金や公共病

院特例債の発行により、平成二十三年度黒字化の目標を平成二十二年度には達成していました。また、院内発表会により、病院の連携が強化されたこと、さらに認定看護師の取得を後押しすることで専門性や士気が高まり、結果的に患者へのサービス向上につながったことでした。

当市においても、既に取り組んでいる事例もありますが、全国的な医師、看護師不足の中で、院内発表会の強化など、さらなる連携も必要と考えます。

リサイクル推進センターでは、家庭用品再利用銀行、天ぷら油から精製した燃料のごみ収集車の運行や子供用カートの体験学習など、さまざまな取り組みを行っており、リサイクルに対する意識を根付かせる機会を提供していました。



牛乳パックからハガキをつくる体験学習

倉敷市では、平成十七年に資源循環型廃棄物処理施設（ガス化溶融炉）が本格稼働したことにより、ごみ焼却ですべてをガス化させ、その成分すべてを再利用することで、平成二十一年のリサイクル率は四七・八％ということでした。

当市のリサイクル率は、平成二十年度で一・八％、年々低下傾向にあります。資源ごみ集団回収事業に取り組んでいますが、参加団体は減少傾向にあるため、啓発などさらなる取り組みが必要と考えます。